

令和元年度長野県飯山高等学校卒業証書授与式式辞

暖冬少雪という異常気象であった冬も過ぎ、生命の息吹あふれるこの佳き日に、令和元年度長野県飯山高等学校卒業証書授与式を挙げる運びとなりましたこと、まことに喜ばしく感じます。

本来であれば、日頃から本校に対しまして格段のご支援・ご高配を頂いております多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、クラブ活動や生徒会活動などで一緒に汗や涙を流した1、2年生に囲まれ、そしてここまで嬉しい時も悲しい時も支え育てくださった保護者に卒業の晴れ姿をみていただくはずの卒業式でした。しかし新型コロナウイルス感染症対策で「今がまさに感染の流行を早期に終息させるため極めて重要な時期であり、感染リスクをさげる」ために参加者は卒業生と職員のみという寂しい卒業式になってしまったことを残念に思うと同時に、卒業生、保護者の皆様に対して申し訳ない気持ちでいっぱいです。関同窓会長、富井PTA会長もとても残念がっておられました。この席に参列し直接皆さんに卒業のお祝いの言葉を届けたかったというお気持ちであることを皆さんにお伝えします。

ただいま、普通科114名、探究科82名、スポーツ科学科34名の全230名のみなさんに卒業証書を授与いたしました。

本日参列していただくことができませんでしたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、まことにおめでとうございます。高等学校の全課程を終え、立派に成長されたお子様の姿をご覧になり、入学時の様子や在学中のこのことなども思い起こされ、感慨もひとしおのことと拝察いたします。これまでの保護者の皆様の御労苦と愛情に対し、深く敬意を表しお祝い申し上げます。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。令和元年の夏、野球部が夏の甲子園大会に初出場を果たし、晴れの舞台で力いっぱいプレーを展開しました。スコアボードに刻まれた1点は、飯山高校に大きな歴史を刻むと同時に、応援して下さった同窓生や地域の方に大きな夢と希望を残したと思います。甲子園は天才の出場も楽しみに待っていますが、努力してきた普通の選手の出場を一番待ち望んでいます。自分の汗の量を、涙の重さを、夢の大きさを、心の強さを知る人、そんな人を待っています。まさに甲子園が100年間待っていたのが飯山高校野球部だったと思います。そして、そんな野球部を、全校で応援できたことは私たちの大きな誇りです。

野球部以外にも吹奏楽部も長野県大会で第1位となり、飯山高校として東海大会コンクール初出場を果たしました。スキー部の強さは今年も健在で、全国大会男子総合優勝四連覇、女子総合準優勝を果たしました。部活動以外にも、課題研究や英語のスピーチ大会、タイ王国研修旅行など全国や世界で活躍し成果を残した生徒も沢山います。

また、3年生は自分の進路実現のために努力を重ね、就職試験、入学試験に取組んできました。今年1年間の飯山高校生の活躍は素晴らしいものでした。

作家の村上春樹さんがエッセイの中で、「苦しいからこそ、その苦しさを通過していくことをあえて求めるからこそ、自分が生きているという確かな実感を、僕らはその課程に見出すことができるのだ。生きることのクオリティは、成績や数字や順位といった固定的なものではなく、行為そのものの中に流動的にもつのだ」と述べています。皆さんの部活動や日々の学習活動にも同じことが言えます。結果はもちろん大切ですが、自ら道をつくり、目標に向かっていく行為そのものが尊いことです。

そして、皆さんが努力を続けることができたのは、言うまでもなくみなさんの御家族や先生方の支えがあったからだと思います。1月の初場所で優勝した徳勝龍の近畿大学相撲部時代の恩師伊東監督が、場所中に急死しました。そのことに関して徳勝龍は優勝インタビューで、「監督が見ていてくれたのではなく、一緒に土俵で戦ってくれたような、そんな気がします」と話していました。おそらく同じように、みなさんのご家族も、先生方も3年間、皆さんと一緒に戦ってくれたと思います。

一方、令和元年は、良いことだけではありませんでした。10月の「令和元年東日本台風」により飯山市をはじめ多くの地域の方が被災しました。今、改めて心よりお見舞い申し上げます。

その中で、本校の生徒の多くが、友人の家や災害ボランティアセンターを訪れ、泥まみれになり、水に濡れながら、労をいとわず一生懸命に活動をしました。3年生は受験の時期にも関わらず何日もお手伝いに行く生徒がいました。ボランティア活動に行くために、長靴をビニール袋に入れて登校する生徒を、私は朝の生徒昇降口前で見かけ、人から強制されたわけではなく、主体的に自分の意思で行動できる人間に大きく成長したことを本当に頼もしく感じました。皆さんが迷うことなく災害ボランティア活動をする行動力と優しさが、被災された方をどれだけ励まし、一歩前に進む活力を与えたことか図り知れません。

皆さんは、この学校で素晴らしい友人や先生方に出会い、かけがえのない高校生活を送ったことと思います。しかし、この飯山高校での青春時代を、そしてここでの友情を超えるような新たな人との出会いがなければ1年1年の人間の成長はありません。今の皆さんが最高ではありません。今が最高最強であつたら皆さんの人生は面白くありません。これからも自分をさらに高めてくれる人と出会う人生を、選択し続けてください。

結びに、卒業する皆さんの人生が、光り輝き、幸福と充実感に満ちたものであること、そして、今年の皆さんのように「自分以外の誰か」にも幸福をもたらすものであることを、心から願って式辞といたします。

令和2年3月1日

長野県飯山高等学校長
林 秀 徳